



## 交通安全への取り組みが認められる 令和2年度交通安全功労者表彰

9日、令和2年度交通安全功労者表彰式が都道府県会館（東京都）で開催されました。この表彰は、交通安全の確保・交通安全思想の普及に貢献し、顕著な功績のあった個人と団体を表彰するもので、大府市は交通事故死者数の少なさに加え、平成29年に自転車運転者への保険加入の努力義務規定を設けたことや市内各地で行われている交通安全啓発などが高く評価されました。また14日、受賞の喜びを豊田東海警察署長に報告しました。



▲受賞した皆さん(後列右から2人目が岡村市長)

▲衛藤内閣府特命担当大臣から表彰を受ける岡村市長

## ▼JR大府駅西口に掲げられた市制50周年記念フラッグ



## 駅前がお祝いムードに 市制50周年を祝うフラッグ設置

市は市制50周年を盛り上げるため、JR大府駅前とJR共和駅前の道路やロータリーに記念フラッグを設置しました。

記念フラッグは青と白の2種類があり、市制50周年記念ロゴマークと9月1日に新たに市の木と市の花に指定されたサクラとツツジがあしらわれています。10月末までの期間限定で設置されていますので、駅にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

## ▼市制50周年記念ポロシャツを着用する出席者



## 議場で50周年をPR

### 市制50周年記念ポロシャツを着用して議会を開催

2日、市議会第3回定例会で市議会議員、市長以下幹部職員が市制50周年記念ポロシャツを着用し、市制50周年をPRしました。

このポロシャツは市観光協会が製作したもので、ブルー地に白く胸に市制50周年ロゴマーク、背中には前日に市の木、市の花に指定されたサクラとツツジの花束を持った市公式マスコットキャラクター「おぶちゃん」がデザインされています。

▼たわわに実った「新高」を丁寧に収穫する久野さん



## ワッ！ 大きい！ 直径約13㍍の梨

ジャンボ梨「新高」の収穫始まる

11日、市特産のジャンボ梨「新高」の収穫が北崎町井田の久野さんの梨農園で始まりました。

新高は、1個の直径が約13㍍、重さ約1㍑と豊水の2～3倍の大きさで、昼夜の気温差が出てくる季節になると色付きはじめ、収穫期を迎えます。久野さんは「例年と同じように大きく、味も良く仕上がっています」と話しました。収穫作業は、10月中旬まで続く予定です。

▼ろう者から手話を教わる市職員



## 手話をもっと身近に

手話紹介動画の制作

3日、市役所で手話を紹介する動画の撮影が行われました。市は今年4月に手話言語条例を施行し、市民にろう者や手話に対する理解を深めてもらうための施策を進めています。この動画制作もその一環で、簡単なあいさつや単語を紹介し、手話の成り立ちや手の動きなども紹介する予定です。

動画は10月中旬に市公式YouTubeチャンネル(おおぶムービーチャンネル)で公開予定です。

▼絵画に見入る来場者



## 大府で初開催

第35回風景の会絵画展 愛知を描く・令和の眼

15～27日、歴史民俗資料館で、市制50周年記念事業として、企画展「第35回風景の会絵画展 愛知を描く・令和の眼」が行われました。

「風景の会」は県内にある美術団体や会派の枠組みを超えて設立され、市文化芸術功労賞を受賞した森岡完介さんや、市内在住でドウ畑をテーマにした絵で有名な中島佳子さんが参加しています。

▼段ボールベッドに座り、協定書を掲げる室瀬工場長と岡村市長



## 段ボールで安心を

王子コンテナ(株)名古屋工場と協定締結

14日、市役所で、王子コンテナ(株)名古屋工場(豊明市栄町)との「災害時における生活物資の確保及び調達に関する協定」締結式が行われました。王子コンテナ(株)は段ボール製品を製造しており、災害時に要請を受けた場合、必要な段ボールベッドや段ボールパーティションなどを市に提供します。

避難所での新型コロナウイルス感染症予防や、大規模災害に備えて、今回の協定締結の運びとなりました。

## 文化を発見することは面白い

私のバイクの車検がそろそろ切れます。この車検制度、実はカナダにはありません。日本の方には「車検がないのに安全性をどう守るの？」と聞かれます。カナダでは路上での抜き打ち検査があり、車の整備状況が悪いと没収されるので、個々で整備をしています。このように、国ごとの考え方は異なり、車の運転マナーにも違いを感じます。例えば…

- 車線変更：海外では頻繁に車線変更を行うため、バイクを運転する側としては日本の方が安全です。
- 速度：日本でも、制限速度以上のスピードを出す人もいますが、しっかり守っている人が多いです。バンクーバー市では、制限速度+10\*が常識です。
- クラクション：速度の遅い車には、後続車はクラクションを鳴らしますが、日本ではあまり聞きません。
- お礼の仕方：日本では相手の車に譲ってもらった時、クラクションを軽く鳴らしたり、会釈したり、ハザードランプをつけたりしますね。これは日本特有の文化かもしれません。カナダでは、ほとんどの人が「ありがとう！」と手を振ります。
- 横断歩道：横断歩道で待っている人がいるとカナダでは皆止まりますが、日本ではあまり止まってくれません。



▲バンクーバー市の道路環境

世界中で礼儀正しいと知られる日本のイメージには合わないですね。文化はお寺や食べ物など目に見えるものだけではありません。各国の考え方や習慣が社会の隅々にまで染み込んでいるので、運転マナーのように目に見えない文化を発見することは面白いですね。



大府市国際交流員  
ケビン・ハンフリーズ



郵便はがき

4 7 4 8 7 9 0

大府市中央町五丁目70番地

差出有効期限  
2021年4月30日まで  
(切手を貼らずに  
お出しください)

大府市役所  
広報広聴課 行



広報おおぶ「みんなの声」専用はがき

年齢 / 歳                      性別 / 男・女

広報おおぶの今後の編集や企画に生かしていきたいと思っています。  
ご意見をお聞かせください。

広報広聴課 ☎(45)6214

### 「みんなの声」使い方

- 1 広報紙から切り取ってください。
- 2 アンケート欄に記入してください。
- 3 半分に折り内側全面をのり付けしてください。
- 4 ポストに投函してください。

Q1 今回の広報おおぶで、文字・色・構成などについて、見やすいと思った記事、見にくいと思った記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

見やすい(                      ) 見にくい(                      )

理由

Q2 今回の広報おおぶで、面白い・役に立った記事、そうでなかった記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

面白い・役に立った(                      )  
そうでなかった(                      )

理由

Q3 今後取り上げてほしい企画や広報おおぶへのご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

1193

【この号の内容】 ①表紙 ②特集「ふれあいバスが新しくなりました！」 ③マンガ広報 ④特集「女性活躍中！ いきいきと働く女性の姿」 ⑤市制News ⑥おめでとうございます ⑦情報バック ⑧フォトNews ⑨The Kevin Report ⑩学び舎探訪 ⑪給食5つ星レシピ ⑫夢キラリ人 ⑬その他



## 学び舎探訪



### 大府西中学校 DAIWA防災学習センターでの校外学習

9月16日、大府西中学校の生徒が、オープンしたばかりのDAIWA防災学習センター(市防災学習センター)を訪れました。

生徒たちは興味津々で、タブレットでQRコードを読み取りながら進める防災のクイズに挑戦したほか、水害体験コーナーで冠水した車のドアが水圧で開かないことを体験したり、地震体験コーナーで激しく揺れる家具を見たりして、災害の恐ろしさを実感していました。生徒は「地震によって大きな家具が倒れるのを見て驚きました。とても怖かったです」と感想を話しました。



## 給食 5つ星 レシピ

### ナスの肉みそかけ

肉みそは子どもも食べやすいように砂糖がたくさん入っています。ナスが苦手な子も「肉みそを付けたら食べられる!」という子もいます。砂糖を入れてからは焦げ付きやすいので弱火~中火で。

#### 材 料 (4人前)

ナス	2本
サラダ油	適量
豚ひき肉	50g <sup>ラ</sup>
ショウガ	少々
砂糖	大さじ3
赤みそ	大さじ1と1/2
水(お湯)	大さじ1
みりん	小さじ1

#### 作 り 方

- ① ナスは縦半分に切り、フライパンに油をいれて焼く。焼いた後、ナスをフライパンから取り出しておく。
- ② ①のフライパンあるいは別の小鍋で、ひき肉を炒める。色が変わったら、砂糖、お湯で溶いておいた赤みそ、みりんの順に入れて炒める。
- ③ ①に②をかけて出来上がり。



## 自分たちの成長を感じてほしい

バット・アルハムさん

内海紗花さん

フレイレ・チエミさん

「おおぶ映画祭2020」で上映された『ス イッチバック』。公募で集まった市内の中学生らが出演し、大府市を舞台に大人に翻弄ほんろうされながらもそれぞれが抱える葛藤を乗り越えていく青春を描いています。この映画は市制50周年記念事業として制作され、現在、全国公開や国内外の映画祭への出品を目指してクラウドファンディングに挑戦中。今回は主役を務めた大府北中学校3年のバット・アルハムさん、フレイレ・チエミさん、内海紗花すずかさんに映画に参加した感想などをインタビューしました。

―映画に参加したきっかけは？―  
 アルハム「昔から映画を見るのが好きで、映画の仕事に興味があったので参加しました」  
 チエミ「まなポートや外国人向けの学習支援で参加してみたらと言われることがあり、運命を感じたのでやってみようと思いました」  
 紗花「もともと女優などの人前に立つ仕事に就きたいと思っていたので応募しました」  
 ―一番印象に残っていることは？―  
 アルハム「最初はみんなで撮影を行っていましたが、徐々に個人撮りが多くなっていきました。最後のシーンでは久しぶりにみんなが集結し、共に頑張ってきた半年間の締めくくりに迎えることができうれしかったです」  
 チエミ「モデルとして演じたシーンでは、スタッフの皆さんがスポットライトの角度を調節したり、風を当てたりして、私をきれいに撮ろうとしてくれました。本当にモデルになれたような気がして楽しかったです」

紗花「チエミとバスケットをしたシーンでは、ブ ロックのタイミングがなかなか合わずとても苦勞しました。予告編を見て気づいたのですが、シュートのフォームがバラバラなので撮影の苦勞をそこからも察してください(笑)」

―今後の目標は？―  
 アルハム「セリフに合わせた表情を作るとき、自分の思う表情と監督が求めている表情との違いに気づけず苦勞しましたが、撮影を重ねていく中で徐々に分かるようになりました。将来は、世界で活躍する俳優を目指します」  
 チエミ「元々は人前に出るようなタイプではなかったのですが、今回の経験を機に人前でもしっかりと話せるようになりました。将来は表紙を飾れるようなモデルになりたいです」  
 紗花「セリフを覚えることは苦勞しましたが、演じることで、客観的に自分ではない自分を見ることができたのでとてもいい経験になりました。将来は型にとられない演技ができる女優になりたいです」  
 アルハム「半年間の撮影で、普段関わることのできない大人と関わり、プロとして映画に携わっている人たちの本気の姿をそばで見えていく中で、精神的にも成長できたと話す3人。この貴重な体験が3人に夢と希望を与えたことでしょう。」



▶映画「スイッチバック」の詳細はのりから



今号のマンガ広報は「戦争体験映像」について描いてくれました。これは戦争を体験した方々から貴重なお話をいただき、それを映像にする大府市の平和事業の一つです。高校生たちが戦争体験談から感じ取ったことを彼女らの目線でマンガにしてくれていますので、ぜひ一読いただければと思います。映像は市ホームページで公開する予定です。(D2)